

令和2年度 事業計画書

A. 研究実践校への助成

時代の課題に応える研究、教育内容を深める研究、地域に根ざして地道に意欲的な研究に取り組む学校の中から、年に数校を選んで支援のための研究助成を行う。

《小学校》

- 健康教育 (群馬県) 東吾妻町立^{あずま}東小学校

〒377-0301 群馬県吾妻郡東吾妻町 1596-1

研究主題 「自らの健康を考え、メディアコントロールできる児童の育成」

* メディアへの長時間接触が心身の健康にどのような影響を与えるかを伝え、学校と保護者が協働して手立てを工夫することで、自ら考えメディアとつきあえる児童を育成する。児童・保護者の実態調査、実践活動（教科や講演会による学習、体力向上、体験活動等）、研究後の調査とまとめを計画している。

- 特別支援教育・国語科 (静岡県) 袋井市立 袋井西小学校

〒437-0064 静岡県袋井市川井 442

研究主題 「全ての子どもに義務教育初期段階の学びの土台を築く」

— タブレットパソコンの活用や幼稚園との連携等により、平仮名読みでつまずく低学年児童の早期支援体制を確立する —

* 袋井市の幼小中一貫教育が本格スタートする中で、本校は多様な家庭環境・生育歴、発達の差違、外国籍児童の増加等により、特に低学年児童における学びの土台の個人差が大きいことが課題となっている。タブレットパソコンの整備をきっかけに、平仮名読みのアセスメントを丁寧に行い、全ての児童の学びの土台を築くことを研究目的とする。

- 教科・領域 (静岡県) 浜松市立^{きが}気賀小学校

〒431-130 静岡県浜松市北区細江町気賀11529-1

研究主題 「生きる力を育てる気賀小教育の実現」

— 資質・能力を育むための主体的・対話的で深い学びの実現 —

* 「よい授業」「特別活動」「健康教育」「道徳教育」「生徒指導」の五つの教育活動を柱として生きる力を育てる。特によい授業の創造こそが、生きる力を育てることに直結する学校教育の最重要点と捉え、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。

- 国語科教育 (三重県) 桑名市立星見ヶ丘小学校
〒512-0912 三重県桑名市星見ヶ丘8丁目501
研究主題 「主体的に言語活動に取り組み、ともに思考力・判断力・表現力を高め合う子どもの育成」
— 国語科における”主体的・対話的で深い学び”を目指して —
* 教員の文学教材の教材研究力・単元構想力の向上を図り、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりを中心に研究を進め、国語科授業の質の向上を目指す。読書や国語の学習が好きで、言葉による見方・考え方を働かせて、主体的に言語活動に取り組み、必要な言葉の力を身に付けた児童を育成する。
- キャリア教育 (大阪府) 泉佐野市立 中央小学校
〒598-0004 大阪府泉佐野市市場南 1-9-1
研究主題 「先を見通す力」の育成 — 自ら考え伝え合うことができる力 —
* 人生を大きなピラミッドと考えると、小学校時代はその底部にあたるので、様々な体験や人との出会いを通して活動し、心に感じることで自ら考えることのできる子どもを育てる。自分で考え取捨選択できる力をつけて、将来人の役に立つ人間に育てるため、他の教科や、地域・保護者も巻き込んで「先を見通す力」を育成する研究を進めたい。
- 全教科・領域 (岡山県) 津山市立^{いちのみや}一宮小学校
〒708-0814 岡山県津山市東一宮 87-1
研究主題 「聴き合い・伝え合い よく学ぶ子の育成」
— 主体的・対話的・深い学びの授業を通して —
* 新学習指導要領の要である主体的・対話的・深い学びの授業実践を通じて、「他人の考えを聴き、自分の考えをまとめ、人がわかり納得できるように伝える」ことのできる子どもを育成する。指導法の系統図等を作成し、計画的・系統的な学びのプロセスを大切に、学年に応じた力量を身に付けさせる。

《中学校》

- 授業改善 (山形県) 酒田市立第二中学校
〒998-0864 山形県酒田市新橋 4-19-3
研究主題 「主体的・対話的な生徒の育成」
— 自ら考え・自ら学ぶ、共に考え・共に学ぶ —
* 全教科・道徳・特別活動でシンキングツールなどの活用による授業改善を

推進する。「プランニングノート」で授業の振り返りと家庭学習を連動させ主体的な学びを育成する。また国際社会の共通目標である SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標) について、教科や生徒活動・総合的な学習で取り組み主体的な生徒を育成する。

○ 健康教育 (静岡県) 長泉町立 北中学校

〒411-0933 静岡県駿東郡長泉町納米里333-3

研究主題 「メディアコントロール力を高め、主体的に活動する生徒の育成」

* メディアとの関わりについて以前から学校保健委員会を中心に発信し、月1回ノンメディアデーを設定して取り組んでいる。スマホのメリット・デメリットを学び、生徒の自己管理能力(特にメディアコントロール力)を高めていく。学校での取組は町内へも発信する。

○ 地域連携教育 (奈良県) 御所市立 大正中学校

〒639-2306 奈良県御所市大字三室 206-1

研究主題 「学校・家庭・地域の”竹”の協働で子どもたちの学ぶ力を支え育てる”三本の竹”事業の推進」 — 非認知能力にこだわって —

* 学力育成をめぐる「非認知能力」という考え方が注目されている。学力テストで点数化・数値化して見える「認知力」に対して、コミュニケーション力や共感力、忍耐力、自尊感情や意欲などが「非認知能力」で、両方の能力を合わせた「学びの力」を育てていく。学校・家庭・地域の”三本の竹”がしっかり繋がって、子どもの学ぶ力を育てる。

○ 特別活動 (宮崎県) 都城市立 山田中学校

〒889-4601 宮崎県都城市山田町山田 2189-1

研究主題 「小中が連携した子どもの学習習慣や生活習慣の改善・定着を目指して」

— ノーメディアウィークの取組と情報モラル教育を通して —

* 山田地区では、生徒の学習意欲や学力面の二極化が顕著で、学力の向上が喫緊の課題である。メディアの使用過多が原因として考えられるため、子どもとその保護者向けにメディア使用過多の危険性を理解させる教育講演会の実施、小中で取り組んでいるノーメディアウィークのより一層の改善を通して、子どもの学習習慣や生活習慣を整え、学力の向上を図っていく。

B. 教育現場への助成

学校の教諭や大学教官等学校現場を主体とした研究団体・学会等に対して、支援のための助成を行う。研究テーマは、教科領域のほか、特別活動、道徳教育、情報教育、障害者教育、家庭教育、国際理解教育、環境教育等の分野としている。

《数学教育》 広島県中学校数学教育実践研修会

(代表者：天野秀樹／広島大学附属東雲中学校教諭)

〒734-0022 広島県広島市南区東雲三丁目 1-33

研究主題 「子どもたちが発展させて考える力を伸ばす授業研究」

* 本会は、広島県内の中学校数学科教員の実践力向上を目的としている。子どもたちが答えのない問題に直面した際、自ら問いを立て、発展・展開して考えることで解決していくような授業場面を想定。当研修会を通して、広島県内の中学校数学科の現職教員が協働し模索して授業を作り上げ、実践力の向上をめざす。

《科学教育》 鹿児島大学若手教員サイエンスカフェの会

(代表者：加藤太一郎／鹿児島大学大学院理工学研究科 生命化学)

〒890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元 1-21-35

研究主題 「大学から地域へ 学びへの意欲と科学リテラシーを育む教育」
— サイエンスカフェを通して —

* 「サイエンスカフェかごしま」の開催を通して、地域に住む児童・生徒の学びへの意欲と科学リテラシー、地域内でのつながりを育む。最先端の研究の根底にある論理体系に触れることで、児童・生徒の思考力・判断力・科学リテラシーを育て、また、年齢・背景の異なる集団の中での協同的な学びを通して、豊かな表現力・コミュニケーション能力、学ぶことを楽しむ姿勢を育みたい。

《家庭教育》 日本家庭教育学会 (会長：中田雅敏／八洲学園大学教授)

〒102-8561 東京都千代田区紀尾井町 4-5

研究主題 「家庭教育に関する理論的・実践的研究」

* 1986年設立の学術研究団体。家庭教育のあり方を検討するため、家庭ないし家族とは何か、親子・兄弟等の人間関係のありかた、子どもの心身の全人的発達促進、学校教育との関連等、実生活における体験・反省を踏まえて研究を行う。人文・社会諸科学はじめ医学・体育学・家政学等の諸学問による学際的研究を進めるとともに、学校教育の実践的研究等とも密接な連携を図る。

C. 野外教育活動の推進

野外教育（とくに自然体験活動）の充実と推進に向けて、指導者養成の講習会を実施する。また、実践記録や情報等を集めて編集する機関誌「野外教育情報」ニュースレターを年2回発行し、教育関係の諸機関・諸団体などに配布し、知見の普及を図る。

○ 野外教育の指導者講習会

パッケージド・プログラム「IORE SHEET（アイオレシート）」を教材とし、野外教育（とくに自然体験活動）に関する知識、指導法、安全対策等を伝え、指導者の養成を図る。対象は、学校教育関係者、社会教育関係者、大学等の学生、民間の青少年育成に携わる指導者など。メイン講習会は次の福島県での開催を決定している。

10月9日(金) - 10月11日(日) 2泊3日

国立那須甲子青少年自然の家 (福島県西白河郡西郷村真船字村火6-1)

そのほか、奈良県（国立曽爾少年自然の家：9月）、神奈川県（県立足柄ふれあいの村：11月）、長野県、北海道（国立日高青少年自然の家）で検討中である。

○ 機関誌「野外教育情報」ニュースレターの刊行、配布

野外教育に関する実践事例や各種の情報、特集テーマの下での記事を掲載したニュースレター形式の機関誌「野外教育情報」を年2回（1月／7月）発行し、教育関係の諸機関・諸団体等に配布する。発行部数は各回 1,500部を予定する。

現在は、第11号まで発行してきている。

D. 研究報告誌の刊行・配布

前年度に研究助成を行った研究実践校や地域研究団体・学会等の研究成果を掲載した「教育研究情報」誌を年1回発行し、教育研究資料として教育関係の諸機関・諸団体に配布し、成果の普及を図る。

○ 「教育研究情報」の刊行、配布

令和2年10月に発行予定。前年度に研究助成を行った、研究実践校、研究団体や学会等の研究の成果を掲載して、教育関係の諸機関・諸団体約800個所に配布（寄贈）する。現在は第51号まで発行している。

E. 世界点字作文コンクールへの支援

視覚障害者の方々に点字と音声の架け橋を築くため、オンキヨー株式会社と毎日新聞社点字毎日とが平成15（2003）年に創設、その後世界規模（現在は世界4地域128か国）に発展した。

国内・海外両部門で優秀作品を選考・表彰し、入選作品は、点字と活字を併記した作品集として、全国の盲学校、点字図書館、公共図書館1,200個所に寄贈している。

この第18回世界点字作文コンクールを、共同開催の形で支援する。

F. 医学・医療教育及び教育技術への助成・研修支援

医学・医療分野での教育及び教育技術の充実・刷新に寄与するため、インターネットを利用した教育や研修（eラーニング）を計画している学会・医療機関・大学等に対して、MED I@（メディアアット）システムの導入、コンテンツ等の制作と配信、当該システムを利用した研修プログラムの整備・運営等に対して助成や支援を行い、この分野でのeラーニングの普及・展開をめざす。

○ 医学会の大会・学術集会等のネット配信のためのコンテンツ制作・配信

一般社団法人日本癌治療学会、一般社団法人日本小児血液・がん学会、一般社団法人日本乳癌学会の大会での講演など、各医学会での講義・講演を収録し、インターネット上に配信するコンテンツを制作して支援する。

○ 医学会のeラーニング利用への支援

教育・研修等のインターネットでの利用を計画している一般社団法人日本リハビリテーション医学教育推進機構、一般社団法人日本乳癌学会のeラーニングシステムの構築など、その利用推進を支援する。

○ 医学会の資格認定のためのeラーニングへの支援

一般社団法人日本がん治療認定医機構の「認定医教育セミナー」の講演配信サービス、一般社団法人日本癌治療学会の「がん医療専門チームスタッフのためのeラーニングプログラム」などについて、その運用・配信・管理を支援する。

○ 医学会の専門医単位更新のためのeラーニングへの支援

一般社団法人日本専門医機構や一般社団法人日本泌尿器科学会、公益社団法人日本リハビリテーション医学会、一般社団法人日本東洋医学会、一般社団法人日本外科学会などの専門医資格更新の単位取得等を目的としたeラーニングシステムの構築や運用・管理、コンテンツの制作、配信サービスなどを支援する。 以上

令和2年度 収支予算書（正味財産増減計算ベース）

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

（単位：円）

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合 計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益			
基本財産受取利息		3,300	3,300
基本財産受取配当金	641,700		641,700
② 特定資産運用益			
特定資産受取利息		1,000	1,000
③ 事業収益			
講習会事業収益	500,000		500,000
医学・医療eラーニング事業収益	43,100,000		43,100,000
④ 受取寄付金			
受取寄付金	19,140,000	13,860,000	33,000,000
⑤ 雑収益			
受取利息		4,000	4,000
経常収益計	63,381,700	13,868,300	77,250,000
(2) 経常費用			
① 事業費			
給料手当	3,808,000		3,808,000
会議費	640,000		640,000
旅費交通費	1,568,000		1,568,000
通信運搬費	780,000		780,000
消耗什器備品費	135,000		135,000
印刷製本費	1,800,000		1,800,000
助成金等	47,800,000		47,800,000
研究実践校	2,000,000		2,000,000
教育現場	500,000		500,000
野外教育	2,000,000		2,000,000
医学・医療eラーニング	43,300,000		43,300,000
賃借料	2,662,800		2,662,800
雑費	223,600		223,600
支払寄附金	4,000,000		4,000,000
② 管理費			
役員報酬		5,200,000	5,200,000
給料手当		1,632,000	1,632,000
会議費		360,000	360,000
旅費交通費		392,000	392,000
通信運搬費		520,000	520,000
消耗什器備品費		165,000	165,000
光熱水料費		26,000	26,000
賃借料		1,141,200	1,141,200
租税公課		450,000	450,000
支払負担金		50,000	50,000
雑費		296,400	296,400
支払手数料		1,300,000	1,300,000
福利厚生費		700,000	700,000
普及活動費		500,000	500,000
委託費		1,100,000	1,100,000
経常費用計	63,417,400	13,832,600	77,250,000
当期経常増減額	△ 35,700	35,700	0

2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	0
一般正味財産期首残高			11,778,830
一般正味財産期末残高			11,778,830
II 指定正味財産の部			
指定正味財産増加額	641,700	3,300	645,000
基本財産運用益			
基本財産受取利息		3,300	3,300
基本財産受取配当金	641,700		641,700
特定資産運用益			
特定資産受取利息		1,000	1,000
指定正味財産減少額	△ 641,700	△ 4,300	△ 646,000
一般正味財産への振替額	△ 641,700	△ 4,300	△ 646,000
投資有価証券評価益	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高			49,156,480
指定正味財産期末残高			49,156,480
III 正味財産期末残高			69,935,310

[注記]

令和2年度収支予算書のうち、一般正味財産期首残高は、2019年度収支予算書に掲載の一般正味財産期末残高を記載している。

また、指定正味財産における基本財産投資有価証券の評価損益は、3月末時点の時価評価のため、本予算編成時には未算定である。